川　の　概　要

利根川は上越国境を水源地とし、銚子で太平洋に注ぐ日本最大の河川である。

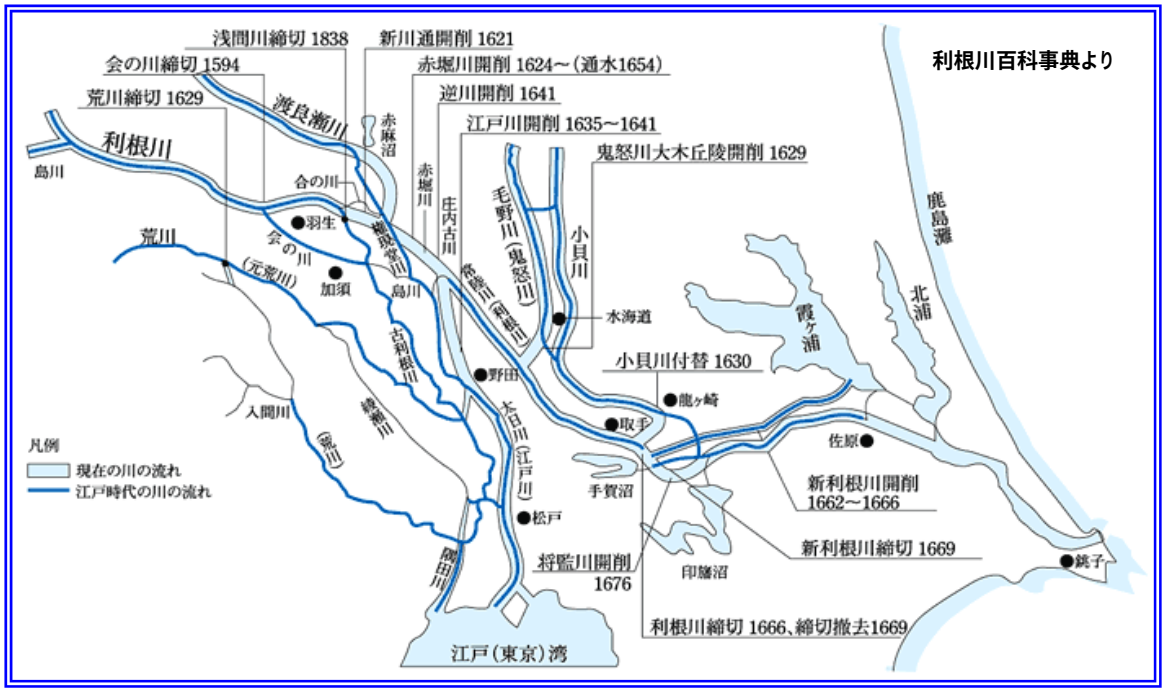
近世以前の利根川は、現在の大落古利根川、元荒川、隅田川を通じて東京湾へと流れていたが、洪水の度に流れを変える「あばれ川」であった。

江戸幕府は新田開発、舟運路の確保、洪水防御などを目的として、利根川を渡良瀬川筋、常陸川筋へと付け替え、銚子まで流す河川改修を行った。

天正１８年(１５９０)に江戸入府した徳川家康は、すぐに領国内の検知を行い、江戸の食糧を関東で賄うべく低湿地の新田開発に着手した。

この利根川東遷は、文禄３年（１５９４）に忍城主松平忠吉が会の川を締め切り、川俣で２派分していた利根川主流を浅間川へ瀬替したことに始まるが、約６０年間かけた大事業により地域は一大穀倉地帯へ変貌していく。

この河川改修には、関東郡代であった伊奈氏の功績が大きく、この工事を通じて関東流の土木技術を大成したとされている。



川　の　デ　ー　タ

＜流路延長＞	３２２．０km
＜流域面積＞	１６，８４０．０km²
＜流域内人口＞	約１，２００万人
＜流域関係都県＞	東京都・埼玉県・千葉県・群馬県・栃木県・茨城県